

ていね▲れきし探検隊

いつも元気な小学生^{ていねやま お}手稲山男くんは、学校の授業で習った手稲の歴史に興味津々です。担任の^{がるがわ}軽川先生は、手稲のことを何でも知っているのです、みんなから「シッテル先生」と呼ばれています。おや？今日も山男くんは、シッテル先生を見つけて質問をしているようです。

今月は「ていね」の歴史や史跡を楽しく学びましょう。

※特集の最後に「手稲山男くんのていね▲れきしクイズ」があります。ぜひ挑戦してみてください。



軽川先生（シッテル先生）



手稲 山男くん

手稲の歴史



山男 ねえ先生、僕、夏休みの自由研究で手稲の歴史を調べてみようと思うんだ。
先生 素晴らしい！先生は、とてもうれしいゾ。
山男 どうして手稲という地名になったの？

先生 いい質問だね。手稲の地名は、アイヌの人々から「テイネ・イ（ぬれているところ）」といわれていたことから付いたんだよ。ちなみに、手稲山はアイヌ語で「タンネ（長い）・ウエン（悪い）・シリ（その山）」。山頂からふもとに向かって長く断がいが続いて見えたから、そのように呼ばれていたようだね。

山男 へえ。それから、手稲はどのように発展したの？
先生 またまた、いい質問だね。じゃあ、学校の歴史資料室に行って昔の手稲のことを学ぼうよ！

山男 わくわく。
シッテル先生 は、歴史資料室で、山男君に手稲の歴史を説明しました。皆さんも、ここで手稲の歴史を簡単に学びましょう。

手稲は、明治の初期に小樽と札幌を結ぶ交通の要所として開けた街です。明治のころには、山口県や広島県などから入植者があり、農耕地の開拓が始まりました。

また、同じころ手稲山では金鉱脈が発見され、昭和十年代には最盛期を迎えました。東洋一といわれた選鉱場を持ち、にぎわいをみせた鉱山でしたが、戦後次第に衰退し昭和四十六年に閉山しました。

一方、急速に進む都市化の中で、手稲町は札幌市と昭和四十二年に合併。発展のスピードはさらに加速しました。

昭和四十七年の冬季オリンピック札幌大会では、手稲山はアルペンスキー、ボブスレーなどの会場として世界の注目を集めました。同じ年、札幌市は政令指定都市になり、旧手稲町は西区の一部となりました。

そして、平成元年十一月六日、人口の著しい増加に伴って西区から分区し、手稲区が誕生したのです。分区から十四年で人口は約三十一%も増加。平成十五年六月一日現在、人口は十三万七千五百四人、世帯数は五万一千六百九十三世帯となっています。